東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 4 月 16 日

死への恐怖

親愛なるムスリムの皆様。人間の天性の重要な弱点の一つは恐れを持つことと恐怖感です。恐怖には自然的なものと不自然なものがあります。本日のホトバにおいて不自然な恐怖の一つである死に対する恐れについて説明したいと思います。

大切な兄弟の皆様。死を恐れることの理由は多数あります。まず第一の理由は、死の本来の意味を理解しないことと、死とは無となることであると思うことです。本来死は、魂が体の器官を使わなくなるということで、あたかも使っていた道具を使わなくなった芸術家に似ています。魂は、体から離れることによって終焉を迎えるのではありません。もし死への恐怖が、その行き着く先を分からないことから発生しているのであれば、その恐れは、実際死そのものによるものではなく、その人の知識のなさによるものです。したがって知識人たちと学者たちはこのような無知から遠ざかりました。来世を確実に信じている人々は、この世を一時的な住まいと考え、死後に対して真の休息場と知っていたゆえ、この世そしてこの世の財産を神聖化せずそれを拝むことも避けました。こうして死後についての無知つまり恐れから自らを守りました。最終的にこのような死に対する恐れは、知識による信仰によってなくなります。

死を恐れることのもう一つの理由は、死んだ後罰されるという考えです。もし死に対する恐れの真の理由はそうであれば、その時死ぬ前に振る舞いを改善し、良い人生に戻るべきです。死を逃れることは不可能であり、[1]死を恐れるのではなく人間は自らの行動に対して恐れるべきです。

死を恐れることのもう一つの理由は、死後自分の家族や子供等はどうなるかという不安感です。しかし実際には、アッラーが子供の糧を与えることを担われている[2]と知るべきです。家族と子供は最も信頼されるお方、つまりアッラーに託されます。最も大切なことは、子供に自分が誰に預けられるかということの知識と認識を与えることです。一方で、もしこのような不安が宗教法に適するものであれば、人間の子孫の継続が絶滅の危機に陥ったのではないでしょうか。

資産と財産に対する欲望の理由に由来する死の恐怖を乗り越える対策とは、この世の財産に対して適切に取り扱うことです。なぜなら不適切に取り扱われた場合、人は欲張りと貪欲に囲まれ、そして自然的にそれを失う不安が生まれ、恐れの理由になるからです。

このように、ここで言及されたすべての要因は確実的ではありません。それらの理由は無知あるいはバランスの欠如ことです。人間にとって未知なものは怖いものです。本質を知らないものにたいして恐怖感を持ちます。私たちは、暗闇の中で歩くとき初めて見た大きな木の姿を野生の動物のように感じます。事前に知っている道にあるものは私たちにこの野生の動物の恐怖感を与えません。知識が死の道において知られていない事柄を明らかにするならば、つまり暗い道を光のように明るくするならば、恐怖も消えてしまいます。

誰であれ死を迎える[3]という聖なる命令を常に体験している事実を思い起こすなら、逃げることのできない神の節理を恐れることは無意味なことではないでしょうか。逆に人生はつまらなくなり、新しいものを見出すこともできず、意味もないものに変わってしまわないでしょうか。

---

[1]参照、第 4 章 78 節; 第 3 章, 185 節.

[2]参照、第 17 章 31 節.

[3]第 3 章, 185 節.